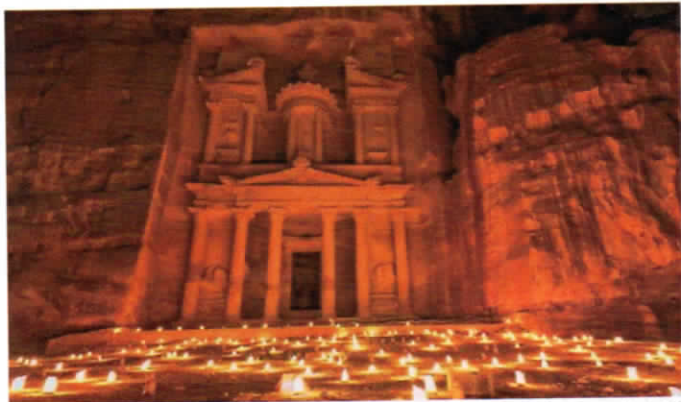


エッセイスト 近藤 節夫



ペトラ：夜になるとろうそくが灯される。(Wikipediaより)

ペトラの謎だらけの古代文明の遺跡は、今も85%もの貴重な遺跡が未発掘とされている。これからもひとつひとつ発掘され謎が解明される度ごとに、世間の関心が高まり一層興味を呼ぶことだろう。

ペトラは、かつてヨルダン南部の溪谷に、エジプト、ギリシャ、メソポタミア、インダスの古代文明を結ぶ隊商都市として繁栄した。その影響を受け古代東方文化とヘレニズム文化が融合した建造物や彫刻がその名残として数多く残されている。その特異な遺跡のありようから世界文化遺産の他にも、「新・世界七不思議」にも選出され、強い好奇心に駆られた多くの観光客が世界中から訪れている。

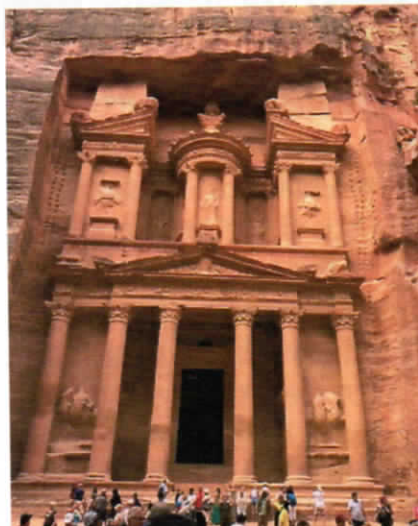
ペトラへは首都アンマンから車なら約3時間半程度で訪れることができる。ここに紀元前12世紀ごろにエドム人が居住し、その後紀元前2世紀頃に北アラビア地方が起源のアラブ遊牧民族のナバテア人が住み始めた。ナバテア人は貿易を独占し交易で栄えた最盛期の紀元前64年に、神聖ローマ帝国によって侵略され併合された。建造物はすべて、そのころナバテア人が崖壁をよじ登って上から順にノミとハンマーだけで削って造ったものだと言われている。



破壊された凱旋門の残像



エド・ディルへ導く通りにラクダが見られる。



ペトラの中心エル・ハズラ正面(Wikipediaより)

元々周囲が砂漠だったために、今も辺りは砂地のところが多い。古代都市の残滓が見事に広がっており、狭い岸壁の間を通り抜けて100m近いシークの狭いルートを歩いて行くと突然目の前にペトラ遺跡の中心であるエル・ハズラが姿を現す。1世紀初めにナバテア王の墳墓として岸壁に造営された壮大な宝物殿である。高さ約30m、間口約25mの建造物の前に立って見上げると、神々しく古代王の威厳に圧倒される。ヘレニズム様式の影響が色濃い2階構造の建物で、宝物庫と呼ばれるが、葬祭殿、霊廟、寺院など諸説あって真実は今も謎とされている。そのエル・ハズラの前には夜になるとローソクが灯され幻想の世界に浸ることができる。

このペトラ周囲は、岩と砂漠に取り巻かれていて、ペトラという名も「岩」に由来している。日中は直射日光が眩しいが、雨季になると地下水が溢れだし、シークを通り中心のエル・ハズラからその奥まで洪水に襲われるという。俄かには信じ難いが、実際5世紀初頭には鉄砲水による大きな洪水により多くの犠牲者を生んでいる。

そしてここから先は奥行き深いペトラが、通りに沿ってファサード(フランス語で建築物の正面の意)や岸壁が連なる広大な地域として広がっている。今に原型を留めるローマ時代の円形劇場、岩窟の墳墓群、凱旋門前を通り、800mの石段の先にペトラ遺跡の中でも高さ45m、横幅50mを誇る最大のエド・ディル(修道院)が往時を髣髴とさせる威容を誇っている。

紀元前1世紀に神聖ローマ帝国の支配下に入ったが、西暦4,8世紀の2度に亙りガリラヤ大地震に襲われ、ナバテア人はこの地から消えた。爾来ペトラの地は、歴史から隠れてしまった。その後の様子は今以て明らかになっていない。歴史上フットライトを浴びたのは、1812年スイス人探検家によってその存在がヨーロッパに紹介されて以降である。今ではペトラ遺跡は、古代遺跡に直に触れることができる世界的な観光地として、人気を集めている数少ない世界文化遺産である。

エッセイスト 近藤 節夫



シークを通り終わると目前にエル・ハズラが姿を現す



シーク入口前の古代人の仮装をした案内人